



柳川重信画

丁丑年春書板

板下字中二十七丁

軍八之巻 九七丁

南總里見八犬傳第九輯

全十冊

曲亭主人編

特別  
イ 4  
600  
34



南總里見八代傳第九輯卷之四十八

東都 曲亭主人編次

第百七拾

照文歸東之房總福多  
東西和睦して兩國津を開く

仁人仁を以て仁を仁に外あり其仁人小主義外小主義必其仁人小主  
只來ると來るもの。里見安房守義成主博愛仁恕の心。水陸の施餼  
果し中。大法師を首也。來會の大衆數百。次の目稻村の城へ召登され  
義成隨卽對面あり。齋を賜り布施を奉る。其官待儀は各身の暇を  
賜りて。成其寺を返され。是より大江親兵衛自暇あるを以て。鹿田の  
城より。其の統重代四郎と共偕小義實先侯小見參りて。君恩の厚きを



其勇の後小言と大敵小知り召れる那様船の危解けし時臣等が船の西を渡りて  
 正一日一夜津の海近く多程の刻風猛可小次起りて櫓を折、楫を摧、船  
 覆らんと有者發者といふを知らぬ人我生る心死、波と風と亦儘一つ  
 又二日夜、風波やう歌りて我船が神風の伊勢の阿昔小宮おけり  
 此則伊勢の國司北島殿の封内七陣頭綱重平大夫同魚と喚ばし者の  
 沙汰とて半死半生を我れを浦の守屋小枝容をて醫師并小漁夫等小課  
 せて有病等困る、一個一個小湯液を薦めて勤り丁寧ありければ我身夫役小至  
 るまで死なるとを知らぬ船中金子と方物の最長、書を誦りて周魚情狀  
 思ふに他等が船相告て安房の里見の使臣といひ、心詭言して果し海  
 賊の突とて敵一人も漏れとて驚く、字言の敷系措せ、果也を國司の言  
 け、徳川日正等の六牙敷金小を歳、果敢る暮入、有延、程小舟、谷山内、西

官領諸侯を連ひ兵を合せ、領を我々の事、風聲那地合ふとて、臣等い  
 胸等、いと身を免れ、徑小還りて御先途小達ると思ふ、計のむ所を和  
 ね、小館の海印章ある修善寺紙を合出、綱重同魚小示り、里見の  
 使臣の船揚小假せ、北島家と一ふの書札の往來ある、故小同魚、其を志も  
 信とせ、故ち還らざるもわらざる、小其頃北島殿、東陣戰、孰れ敗軍の  
 艦海を渡りて、遠北小本營あり、我れと海邊の成りと、固く、且、同謀見と  
 本藏と安房へ遣りて、西敵の腹腹を備、小知り、欲し、今、正、月、の、下、深、作  
 の、同、謀、見、毎、の、多、氣、の、城、小、う、り、本、の、西、官、領、敗、軍、の、事、の、趣、り、な、さ、し、大、板、大  
 村、大、山、北、を、起、り、武、藏、へ、渡、り、て、五、子、新、井、大、塚、忠、岡、の、四、官、領、を、陣、申  
 事、の、願、未、又、徳、國、府、臺、の、間、敷、我、御、曹、司、を、首、め、大、川、大、力、殿  
 大、銅、の、武、勇、智、計、を、て、敵、將、を、屠、り、せ、れ、内、顯、定、主、と、願、各、朝

良主千葉長尾の敗北を、奥平信進と云ふ事、使臣の是の事、大臣等  
去歲の初冬、小京師へ使を命ぜらる。船路を西へ起り、其秘事を、同謀思  
指す智謀あり、都北島殿、吉原と云ふ所の、後小知れり、是れ、  
と、言ひ、言の偽詐を、と、言ひ、格られ、又、周魚小見せ、御印音を、  
都あり、い、い、邪異の疑ひ、解けて、北島殿下知せ、里見、原是、南朝の忠  
臣、我、先、祖、と、同、義、熱、の、好、あり、今、山、海、千里、小、分、居、海、洞、胡、敵、小、以、れ、  
家、臣、と、有、の、渡、海、幸、を、破、船、と、我、對、内、御、備、の、御、小、當、り、を、及、疑、を、我、敵、久、く、  
る、を、小、敵、の、指、け、と、を、云、執、る、れ、夙、異、能、を、も、其、力、方、送、り、遣、り、と、  
あり、か、を、細、田、平、次、周、魚、奉、り、と、臣、等、主、僕、を、穿、合、上、り、扶、け、出、し、勤、り、と、回  
司、の、仰、信、と、事、の、情、史、を、解、け、下、る、則、巨、船、一、艘、小、所、持、の、金、銀、万、物、を、  
一、箇、の、送、り、返、り、載、り、且、能、工、高、師、十、餘、名、を、假、か、え、て、船、出、を、風、小、儘、さ

れ、る、深、初、小、同、り、か、臣、等、終、り、い、か、も、あり、且、肚、裏、小、思、や、我、君、奉、還、す、り、と、  
水、陸、の、大、敵、を、敗、績、し、て、房、總、之、異、の、安、あり、今、は、這、里、に、船、を、返、し、と、安、房、は、  
人、の、要、を、所、行、之、然、り、と、大、江、に、既、り、入、り、参、り、と、回、府、臺、の、開、戦、小、奇、功、あり、と、い、  
ふ、亦、且、氣、の、回、謀、思、の、國、司、に、注、進、せ、と、か、安、房、然、ら、京、師、に、赴、く、と、是、の、要、を、  
事、を、い、い、せ、り、と、分、り、と、あり、左、さ、平、右、さ、子、尋、思、を、志、其、究、竟、の、義、を、  
あり、と、い、い、折、を、も、京、師、小、上、り、と、西、管、領、の、景、保、と、大、兵、を、も、て、我、君、を、使、渡、さ、り、  
欲、る、拜、戰、の、願、未、を、室、所、殿、告、せ、り、天、朝、小、奏、聞、を、經、て、調、買、の、金、を、  
我、君、公、武、三、庭、小、款、ら、我、君、忠、恕、考、順、を、奉、來、の、御、仁、の、時、か、る、顯、れ、  
と、室、所、殿、の、朝、近、も、其、私、を、証、し、を、知、る、る、後、ら、と、首、尾、を、  
思、ひ、に、注、進、信、と、と、意、を、示、し、と、國、司、の、目、を、細、田、周、魚、小、謀、思、  
別、を、言、し、我、主、僕、數、名、一、人、も、恙、あり、と、我、君、巨、船、小、奉、還、す、り、と、

且團の順風小西を扱てをまらせける。信命二月の初旬小室より船渡花岸小果に於て  
郡那津小旅宿を扱て河津の船工官御者と俱小く遣し御我伴官の  
心利を二回三名指北の京師不遣しと事の便直を扱らる小室春京師の官領  
政元主の故あり罷られぬ島山政長主一個官領とありぬ多不事かありぬ  
因て大岸法六の機密を示しん信を那津御章ある紙を用て室所殿へ進し  
欠口書二通と奏答の上書を之形如く小書寫をて調員の具金土匣を自  
録小合正配當して長樞炭箇小の蔵りて天從不昇せ京師小より去歲の秋相  
識れり客舎と宿とを次の日大岸法六と俱小朝版と兼て伴官大役を極へり  
室所殿へ参上小法六部を副使とて田親首屋の西へ小那類怪の故をて遠江藩を  
相別れて御使小人足らぬ之信而臣等法六部も官領政長手就て先命の御  
書を進して且稟まらぬ實方君昇成自來仁政を布施して民を拊固を治り

敵陣圍と犯さるるありあり上を敵を調員の礼懈とありぬ小室東の西官  
領正正顯定具政公ありぬのし私怨をて諸侯を連ひ兵を合せて夏成  
を伐すも是成素より四非ありぬを連帥の脱を路り房總稀小の率を  
て三路の大敵を百戰あり一日小して勝てを以て水内數千の戰艦を燒  
ゆり陸軍百萬の大敵を敷く走せり是保藤原の矢士大坂大塚大坂  
大山大館大川大回ると喚做と有の智計武勇の小室とて大敵難を延て  
のて水陸の路開け御使臣等岬土那照文大岸法六部を遣し御我伴を  
隨御御功を許すも益自方物を貢進して願六夙御制度ありて西官  
領の具金を材下あり東國の大室和平して國民塗炭を免れ御我伴  
成の御功のありぬ八箇國の臣賤男等成御官の御武徳を仰りて家業  
を置酒と太平を樂みぬ御我伴を極便る御下知をて願ひ











九









備へし守如と雖目前之身を指難く但小舟小舟の風聲小舟を  
臣等は是過せか八個の義兄弟の悟り共侶小舟曾當家小舟  
ち皆用ひらるる後かを改小徹功を頑ととも臣等水軍の隊長  
君小舟向小舟は是切の幸二いて惑を解せかひて臣等水軍連  
詐残忍の酷くろりて首小忠誠義の極の王と石とを分るる  
賞四計の御法はあふ善政枯骨及といひ這を説るる小舟憶  
辯小舟ゆれと報誠ハ感激の目皮の露小舟知られけり嘗下小舟文を膝を  
扱の頭衝ける頭を拾げ自願小舟向ひて且つ墨小舟法  
と料とを見参小舟の後の又小舟解見小舟折君小舟知るる  
あはれほど逆臣馬加大臣常武を柱と小舟宅小舟折留りて情比小舟逆謀  
補助小舟せり欲せり果時系説破りて其非を與小舟君りか常武陽小舟

従は是言の決りぬと怖れ其を別室小舟籠りて久々を放ち遣  
ら小舟常武の賀席して筆と對面する條故且用野の假小舟を  
他の復讐の後小舟を送小舟奇れ過せある義兄弟なるを悟れと言を盡さ小  
違多但其補助小舟儘つ他小舟走りぬ遮莫君小舟内小舟常武命  
猶風智と其を誣て云々といひ自あ之今又見参の折を自と眉智と共侶小舟  
自と指所を知らぬ故終りて小舟大坂といひ大田といひ我小舟由縁のありける  
思小舟用るるを知らぬ及て今日小舟常武昔小舟折逆謀を悟りし中り刺違  
回小舟官領の催促小舟從を但小舟數軍の辱小舟過りて後悔の外あり小舟  
和氣成て城小舟還りてを以て使れの往來を鏡され教を教す願ふこと  
謝さるる義成まらち坐て千葉殿思ひかり只小舟智懐願の故小舟

を以て我亦いふありてを意小稱を最芽出さし就て又角谷の西公子小請  
すわしに夏あり御家の忠臣河鯉守如獨子如と安そら河鯉伍大詔者  
嗣の御小姓忠を政木大全と改め今這席末を在り他刑餘の人をも其罪小あ  
らざと安ぬいと御目を賜りぬと引合と其孝嗣の救い出朝長朝軍小うら  
額を授け給早と宣すと申す身非を飾る似れも臣等御家小在り目ハ  
只忠孝の二を以て仕せざるの外ありら小諫者の為小誣れて竟小死刑小  
れ白刃頭小溢り折靈物の買即すと不測小必死を免れ且大に親兵衛小  
進治の救ひあり後小は固様から此小の事と親兵衛中從小兼藤村  
治の首と這回又親兵衛の恩を為小葛飾の闘戦小義通君の先途を撰  
強敵長尾景春を防はる事小尾をも其崖界を陳さる是此一旦の恩  
救小救ひの身小薄命を思ふ久小采利をわむ小其心るを救小大士等

其の今よの時ありいふと西公達小見参を饒され申すとを悟らせぬ  
て御歸城の後先館小仰上らるる臣等寛宥の罪鮮々只身の幸  
の事をもて大買上黄泉小てさそを救ひぬり意を願むる清へ小親  
兵衛の救い出朝長と朝軍小うら向て馬許小ららぬと我仁の言を  
あをせぬの考嗣の死刑の折儀大口自小形を要して根角谷中二管を思  
ふや旨く非死を救ひ白狐の老嗣小受る恩を教へ為の所ありぬ  
後小備小知られらぬの頃東の故ありて武藏小放宿吉程小後小孝嗣小  
屋の死刑の痛すさふいと末期を見せわすて思固邊小赴らぬ代必死を免  
し時料りて其強弱勇怯を試して友相を結ひれ然を根角谷中二管の  
層を隠断して考嗣を救ひ親兵衛の幻術の致所とせえ上りい



和老の社小文吾より交わり。且這回行徳口の聞敷小他皆と報恩の事  
を。我目粗末知れ然れと盛く勇のあり深川小和老を近相する。備口復五  
節のあり在り開を惜せ不能とて朝良主と共侶小迎合より。一要あるとあり  
陣破さずと思へ。其作者のあり在りといひ。主野と指し。中より。河と  
たのふ。石の果を左見右見。現小賢君の下。八行の臣。其の由。元。不。肯。有。  
我身一個の敗軍ある。當日死を志と。非如報恩の報を以。首を接す  
とあり。今。今。何を面目。と。越路。不。退。り。り。と。言。蘭。不。答。を。毛。野。ハ  
ま。そ。と。感。れ。其。備。慨。理。多。か。折。和。殿。の。極。なる。朝。良。主。に。及。殿。外。孫  
中。て。早。由。未。當。日。非。君。陣。破。あり。和。殿。必。命。を。預。え。の。致。小。我。願。智。也  
見。あり。計。り。て。管。城。へ。迎。合。し。り。一。層。力。小。極。と。は。為。あり。と。見。則。并。小。大。五。京  
代。れ。二。度。の。報。恩。の。こと。と。い。は。壯。大。小。吾。の。慰。め。得。たり。と。指。戸。主。和。願。節。也

抑さ自然小儘を。身を敵城小置と。い。の。忠。義。小。厭。り。所。有。其。賢。臣。の。故。た  
り。て。我。君。格。別。の。管。待。あり。是。亦。臣。等。願。所。徐。小。歸。北。の。折。を。俟。て。後。の。整  
修。あり。と。諭。せ。由。元。領。く。の。又。い。の。あり。の。り。の。高。下。義。成。主。ハ。憲。房。小。う。ら  
向。ひ。て。内。の。公。子。那。驛。馬。三。連。車。ハ。奇。妙。あり。然。れ。は。奇。巧。あり。と。い。は。奇。物。是  
を。破。り。て。あり。和。君。の。後。れ。ち。あり。と。會。般。が。雲。梯。の。墨。王。聖。小。お。れ。ら。ま。の。を。思  
ひ。屈。め。の。と。と。慰。め。られ。て。喜。ぶ。方。ハ。無。然。と。と。嗟。嘆。小。堪。む。平。と。い。わ。る。も。  
あり。と。折。巧。何。そ。負。ひ。不。足。り。盛。賢。先。生。拘。れ。て。後。小。惣。隊。軍。未。做。り。と。う。  
身。小。亦。捨。お。せ。れ。て。い。ま。親。の。安。危。を。知。り。と。徳。而。在。り。と。一。日。小。十。杖。小。異。り。と。い  
這。意。を。察。し。成。氏。側。と。謝。され。長。成。感。嘆。して。考。る。或。若。死。人。未。過。り。と  
い。と。笑。言。れ。成。氏。側。と。然。也。と。と。黙。頭。て。這。子。の。如。は。親。小。徳。を。行。小。以。て。移。り  
あり。と。唯。實。初。回。の。臺。を。信。乃。現。小。し。れ。り。刺。す。の。過。ち。と。改。さ。り。言。還。ち。を



討小上と洋雲作小二十名小過すと又那西城、田村、質九郎、延時、  
首屋八郎、能仲、東中、明相、流川、本、雨、葉、衆兵を以て是を  
守り、小程、小道、節、去、成、冬、水、戦、小、射、梅、屋、小、隊、を、角、谷、朝、軍、ハ  
流、下、總、葛、飾、を、矢、所、河、小、建、り、時、大、飼、現、八、小、極、れ、且、親、兵、衛、の、神、樂、の  
所、致、也、甞、生、り、つ、矢、傷、人、愈、て、生、物、也、も、共、侶、小、橋、村、の、城、小、在、り、と、安、知、り、  
怒、四、馬、も、と、大、方、を、目、の、館、の、慈、善、を、旨、と、あ、る、御、旨、令、あ、り、と、  
て、壁、下、の、敵、大、將、を、殺、さ、せ、活、置、を、不、戦、する、小、志、を、  
村、小、在、程、非、如、炭、香、石、さ、る、我、の、心、か、り、と、數、圍、れ、極、く、  
し、を、明、相、小、諫、り、ら、れ、本、城、小、本、小、け、れ、と、向、憤、り、解、は、れ、其、詰、朝、先、信、  
乃、小、件、の、怨、を、い、お、さ、る、と、論、せ、を、信、乃、小、徐、小、和、解、と、あ、る、大、山、并、を、  
云、現、之、那、角、谷、小、和、解、の、故、主、の、冤、家、も、も、  
春、那、頭、鐘、を、

敵敵を愛  
はるあつた

壁と志を思ふ小あつた然れ去敵の冬の闘戦の當部御大事也我が  
上を仍る時小あつた大飼大江は這夏を以て俱小那死を殺し朝軍  
かり折命終ら後小和睡ありとる猶怨を送る然る後の患ひも  
を去れり秋と解れと道節言下悟りて寔の余也々とて又  
辯せ是の後の現八親女橋と圍坐する目のヨそれとも這夏を去る  
いひゆを倚回入のあ時小我を去る他事小幼りて説誇らるるりゆ  
信乃小情せ小感嘆して哥々ハ理非小醒て感りて君子の風ありとをわ  
けの同語休題時小四月十六日當日大江親女橋 留時 照文 光 綱  
衣麻社杯とて京家の旅館小相候と時分里江けを報りか勅使代廣  
當使使直親立立身帽子大紋の直番小小力を腰小跨りてゆく  
命乃の隨従の難しと人未名素袍身帽子也大力を社り征前を執



十九









西へ個邊へ渡りて、我々の義成小ら向ひて賢侯其の心あはれ  
臣の京家の人をも、実の角谷内計我の老黨を巨田新助友  
齋藤左兵衛、高賢下河邊、莊司行包等とて、又只我々のとるを千華  
老黨原胤久の弟の原赤石、及風輪長尾の老黨直江、三浦の兵頭、  
崎雲人等、這里小作り、實君、定正、顯定、將軍家の御諺書、小畏と、和  
睦の御義を仕といふも、賢侯同意あるは、否を知らぬ、あはれ小京家の  
御使、請すのて我、其伴、高木、打、伏、候、推、参、仕、ら、ぬ、事、被、受、小、也、機、要  
あはれ、い、海、谷、を、願、せ、ら、る、異、口、同、様、小、陳、謝、と、推、來、ら、る、素、村、の、三、丁、仕、  
定、正、顯、定、の、折、和、睦、の、折、言、中、を、る、白、羽、の、征、前、二、條、大、敷、を、と、助、友、高、賢、會、  
揚、て、集、成、主、小、普、呈、と、言、下、河、邊、原、直、江、來、崎、の、四、老、黨、但、美、成、小、ら、  
自、額、を、極、に、拜、謝、と、和、親、の、使、者、の、礼、を、盡、さ、能、谷、自、親、執、事、房、外

疎慢をせざる、我々の心を、西宮領諸將、只、管、和、議、を、い、さ、の、故、亦、我、其、徒、を  
將、と、ま、り、と、落、語、れ、美、成、異、議、を、其、後、あ、ら、る、は、い、ぬ、三、和、傷、を、見  
久、の、件、の、使、者、小、女、等、の、情、ま、り、の、通、文、美、成、の、又、後、の、思、分、和、睦、の、事、小、別  
議、を、餘、事、の、後、刺、談、せ、り、俱、ま、客、の、同、中、退、却、後、を、使、臣、を、受、け、れ、と、受、の、心、  
助、女、等、の、相、談、し、て、言、美、成、の、却、失、士、の、向、ひ、と、名、對、向、し、と、旦、り、の、事、也、  
所、殺、時、我、の、黃、昏、曾、與、亂、軍、の、中、の、一、面、を、認、ら、れ、る、事、也、  
如、江、の、折、大、村、主、小、敷、真、砂、と、共、侶、小、深、三、條、想、と、身、を、解、れ、と、我、  
後、河、邊、の、城、小、木、を、奪、り、今、主、香、の、使、小、立、ら、れ、ら、う、只、這、漢、の、事、を、小、破、真、砂、又  
許、我、の、近、臣、望、海、二、部、品、草、七、部、又、輪、津、衛、の、從、軍、を、妻、有、復、六、救、野、井  
三、部、の、折、本、所、の、戰、場、を、免、れ、れ、も、敵、軍、の、比、見、へ、還、ら、と、津、衛、の、客、危、を、知  
ら、る、と、河、邊、の、城、小、木、を、今、猶、淹、留、と、津、衛、の、迎、小、木、を、必、死、有、之、昨、を

兵部之怨敵なり今ハ厚賞の良隣小使仁義の餘徳ありと教を願ふ  
 のこと謝され毛野の信乃親兵衛大角莊次現八丈吾母和談の成りを  
 祝着と開ら申す道節の三回さる如く黙然と當下美成堂を専と誰か  
 這天御使入を客の同小室内と喚立れ何と合る思役速女満呂  
 二重階の向より身を起しおの助女以下の使臣小室内を以て遣はし  
 眞の雜掌のこまらぬを遣りけし今程小秋修將曹廣當八倍と美成の向  
 ひて房列升進の宣下ありと告げ美成皆異と美通と兵衛小席を遣て拜  
 龍正廣當威儀を結ひて宣下の趣別ありと天皇詔とのぞく里見  
 安房守兼上總久原の朝臣ハ礼を富家驛らと善政仁義ありと書きたり  
 國治りて民親賢佐書るとかえそ是次迫小資献の使者を中あらせと  
 其忠誠を致しと再度承乃と新又を成の冬ハ三回の大宴とて所遣一歩

七

境の事と一時強敵を敵と違て國民塗炭を免れ是併兵良臣  
 尖士と喚ばし者の智計武勇の朝野由れる具功豈鮮やあら夫功  
 ありて必重賞を多へ賞四正かさるとは賢路空れ小人時を以て民  
 従つての故小美成朝臣と正四位上左少將とと安房守兼上總久原の如く婚  
 子大郎美道を従五位下右衛門佐と其父美實朝臣ハ藤道元久  
 といふも倉井業の武功厚くわをも藤見圓孫克其妻を嗣ぐ小足れあを  
 自と治部卿とと又兵家臣大江親兵衛とも看事京師小使也時輔  
 見效を對治しを良賤安堵の思ひと做せらるの故小勅使代小餘廣當を  
 自と中途小地を追きて島村恒の宣下ありと他亦宣下を成ありて辭ひ  
 宣示つとさる此故小下度故と並て具八丈士を従六位下小叙とて且  
 大江親兵衛仁と兵衛尉小大取毛野胤智を下野小大塚信乃成孝を信

濃水小大出道新出頭を帯刀先主大村大南礼儀を大出頭小大川社外  
長任を長使小大銅現八信道を兵衛權佐小大田小文吾傍順を豊後  
外小使する俱不忠敵大功の朝賞に違ふ義成朝臣美事と伴の八人の配當  
とて天皇の詔と宣う是れ申りて上卿左大使右中辨なり臨時の餘目を  
仍して勅使代臣廣高を遣小使房遣されて朝恩を知悉りらる遣御旨を  
室所殿小仰合ふ所二熊谷生の齋しを御教書のあると備の言詳示  
して準備の屬蓋君鳥憎子朝服を被領る職を敷通の位記と俱小遣御旨又  
熊合直親も室所殿の御教書を合ふと義成王小渡けり這時義成老  
侯の名代を殿内藏人貞房西家老等と俱小次の間小在りて當席小を  
拜聽然外相小作たる大土實朝言の過れらる驚記と伴平伏を僅小  
出頭を拍りたるけり當下義成王小謹て勅答せり臣馬成維次の御功を

たふ

是父祖三人家臣其等八人俱小宣御所の勅賞を兼も今古小州ある  
べゆゆを且入義成實の如け捨て榮利小出る老病那言副の政小  
名代をも并走を是れ不赦小ゆ何を敢位を辱はる況況大江親在  
等八人の受領の物作る義成僅小房總二小國の守小を受領の臣臣人  
あら非如勅賞するとも僭上小以て罪免さるる物を盈る時以て僭上小  
日輪三五の明月就願願する義成其の盈るを願ひて盈るを乞ふ  
あふたのいふを辭表を獻る御執成らと願ひければ辭表を廣高使を  
其謙遜り然るも王事監とて論三小八行の如く申す二小返さるは  
只兼するの事とありと論せり直親も傳小わらる昔鎌倉の右大臣  
后から大任を宣示するも其身在國と受領るも御旨と然とい  
はる戰國割拠の今の世に上洛最を易くは何ぞ居る受する日を僭



此の客の同中御食饗の儲小あり大坂下野大塚信濃大村大守大川長持等  
送代小物とあり酒盃を厚むれり即ち友等分給を多く喫むるに城渡真の目  
を定むれば是を準備甚多とみけ既して酒盃納りて又大塚大坂の  
共宿小中と本て伴の六個の使人小君人命を傷むる和談既小成り上六那五ヶ  
城を返して敗將達を愛り遣らぬ今さら小仔細を那君達の高談して  
時目を定むべしとあり其の助友高實仍色等相給て高量する今より  
六日の後本月二十日吉見六の目ありべしとて違後て以合しわ三土身  
集成主小物と上て伴の六個の使人を引て成次以下の請取得小對面を  
若し其の意段の面長をわらぬと互小盡せりあふされん其をを百めて且本向  
未小解分るを聽れり

南總里見大傳第九輯卷之四十八 終

天保十二年辛丑年

春三月二十一日移

著作堂只授稿

筆——福硯王爵

大吉 利 示